

町政 執行方針

3月定例議会で小林宣夫町長が示した、平成30年度の町政執行方針の概要をお伝えします。

町では、「茨城町第6次総合計画」を策定しました。本計画では、新たな視点と発想を加え、町の持つ特性・資源を最大限に生かしながら、各世代が共に輝くことのできる、魅力と活力あるまちづくりに取り組むこととしています。

これらのことを踏まえ、町の基本政策に沿って、平成30年度の予算編成を行いました。

平成30年度の主な事業

健やかでやさしい健康・福祉のまち

拡充 多子世帯保育料軽減事業

子育て家庭の経済的負担軽減を目的とし、第3子以降の3歳未満児の保育料無償化に加えて、第2子の3歳未満児の保育料（全額負担者に限る）を半額にします。



予算額
998万円

新規 健康ポイント事業

健康意識の向上を図るため、自主的な健康づくりの取組みに対しポイントを付与し、応募者に参加賞や景品を贈呈します。



予算額
122万円

健やかでやさしい 健康・福祉のまち

すべての町民が健康で長生きできるよう、恵まれた保健・医療環境を生かし、きめ細かな保健サービスを提供し、安心できる医療の確保を図ります。加えて、次代を担う子どもが一人でも多く生まれ、健やかに育つよう、町全体で子ども・子育てを応援する体制の強化を図ります。

また、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせるよう、充実した福祉環境や人情味あふれる町民性を生かし、介護・福祉サービスの充実、地域で支え合う地域福祉活動の促進を図るほか、すべての町民が安心して生活が送れるよう、社会保障施策を推進します。

快適で安全・安心な 生活環境のまち

ずっと住み続けたいくなる、来

てみたくなる、美しく快適な生活環境づくりを進めるため、総合的な環境保全対策やごみ処理等環境衛生対策を推進するとともに、上・下水道の充実、憩い・やすらぎの場となる公園や緑地の整備保全を図ります。

また、すべての町民が安心して快適に住み続けられるよう、災害に強いまちづくりを進め、大規模災害の教訓を踏まえた消防・防災体制、減災体制の一層の強化を図るとともに、社会環境の変化に対応した交通安全・防犯対策、消費者対策を推進し、町民の安全・安心な生活を支援していきます。

次代を担う人を育む 教育・文化のまち

次代を担う人材の育成を図るため、知性と教養に満ち、心も体も健康な人間形成に資する教育を推進していきます。そのため、この町で子どもに教育を受けさせたいと思えるまちづくり

誘致や商工業者の経営安定化への支援などにより、地元商工業の活性化を図るとともに、交流人口の拡大に努めます。観光・交流から移住への展開も見据え、多彩な観光資源や農家民泊の取り組みなどを生かし、観光・交流機能の強化及び友好交流都市との連携強化をしていきます。

未来への生活基盤が 整ったまち

町全体の一体的・持続的な発展ができるよう、恵まれた立地条件・道路条件を生かす視点に立って、町民生活の利便性や安全性のさらなる向上を図ります。そのためにも引き続き、国道・県道の整備促進を関係機関へ働きかけるとともに、幹線道路の整備を進め、加えて通学路や生活道路の環境整備を推進していきます。

また、新しい文化の創造のための拠点となる文化的施設整備については、庁内検討委員会や外部検討委員会を設置し、規模

快適で安全・安心な生活環境のまち

新規 防犯灯LED化推進事業

町と地区が管理する防犯灯のLED化を町が一括して行い、防犯強化と環境施策の推進を図ります。



予算額
4,720万円

新規 高規格救急自動車購入事業

高規格救急車を整備して、緊急時の対応に備え、安全安心なまちづくりを目指します。



予算額
3,977万円

活力と交流あふれる元気産業のまち

観光公園等整備事業

ラムサール条約登録湿地である涸沼を観光の拠点として涸沼自然公園内の木道や、同公園付近にビュースポットを整備し、観光・交流機能の強化を図ります。



予算額
2,436万円

みんなの力でつくる自立したまち

地域おこし協力隊事業

都市部から受け入れた地域おこし協力隊員が地域協力活動を行い、更なる地域力の維持・強化を図ります。



予算額
1,847万円

活力と交流あふれる 元気産業のまち

特色ある農業のまちとして、多角的な農業振興施策を積極的に推進するとともに、涸沼の漁業の振興にも努めていきます。

また、活力あるまちづくりに向け、2つの工業団地への企業